

2026 年 10 月 22 日

J X 金属株式会社

AI 関連需要の拡大に伴いチタン銅の生産能力を増強

J X 金属株式会社（社長：林 陽一、以下「当社」）は、チタン銅の需要拡大に対応するため、生産能力増強投資を実施することを決定しました。

当社 倉見工場（神奈川県高座郡寒川町）においては、熱処理設備の導入を実施いたします。加えて、当社が株式会社日本製鋼所（社長：松尾 敏夫）と共同出資している室蘭銅合金株式会社（社長：清水 章裕、以下「室蘭銅合金」）においても、新たな溶解・鑄造設備の導入を行います。これらの投資により、チタン銅の生産能力は 2029 年度には 2026 年度比 50%増となる予定です。

当社のチタン銅は、すぐれた強度や加工性といった特長を持つ高機能銅合金であり、これまでスマートフォンやパソコン向けコネクタ材料として幅広く採用されてきました。近年、生成 AI の急速な普及を背景として世界各地で AI データセンターの増設が加速しておりますが、AI サーバ内のコネクタには、高温環境下でも優れた強度と信頼性を維持できる同製品が採用されており、需要が急速に拡大しています。さらに、今後はロボットやモビリティなどの分野におけるフィジカル AI の普及に伴い、さらなる市場の成長も期待されています。

こうした市場環境を踏まえ、当社は需要増加への対応と安定供給体制の強化を目的として、生産能力増強投資を実施します。倉見工場で増強する熱処理設備は、チタン銅の特性を引き出す重要工程であり、需要急増によりボトルネックとなっていたものです。また、室蘭銅合金における溶解・鑄造設備の増設は、需要増加への対応に資するのみならず、BCP の観点からも、より強固な供給体制の構築を図る上で重要であると考えております。

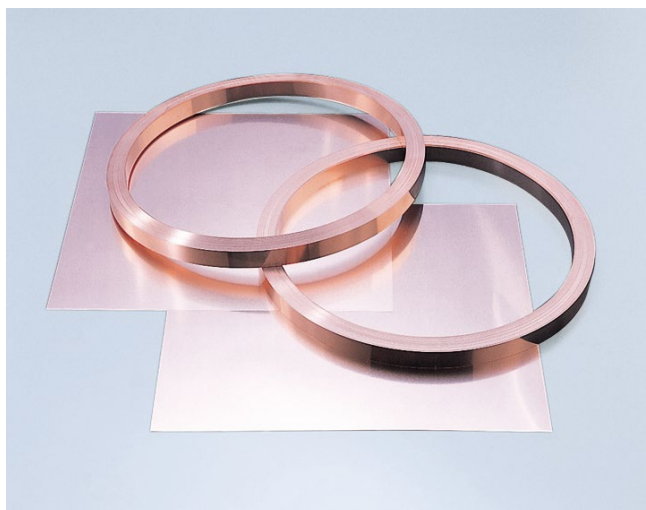
また当社は、原料の 100%リサイクル化を実現したチタン銅の供給も進めております。独自の不純物分離・混入抑制技術により、従来品と同等の性能・品質を確保し、環境負荷低減と高性能化の両立を支える材料として提案を推進してまいります。（※1）

当社は今後も先端情報通信分野やロボティクス分野の発展を支える高機能材料の供給を通じて、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

以 上



室蘭銅合金の既存溶解・鑄造設備



チタン銅

<参考>

※1 2025年1月14日プレスリリース「[原料100%リサイクル高機能伸銅品販売開始 — サステナブルなチタン銅合金およびコルソン合金の提案を開始 — | 2024年度 | JX金属](#)」